

評価項目	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価等でいただいた意見等
各学校での目標(重点は○数字)・具体策				
I 特色ある学校づくりのための学校運営				
1 ふるさとを学ぶ機会の充実を図る。 ・地域の特色を生かした、総合的な学習の時間を推進する。	A	・1学年の総合的な学習の時間で、地域「たたら製鉄」、2学年で地域の事業所での職場体験学習など、ふるさとを学ぶ機会の充実が図れた。	・総合的な学習の時間の3年生の「福祉」に関しては活動内容(地域と関連づけたもの)について再考していく。	福祉に関しては、町の子育て支援課や福祉課と連携ができる。
② 「感動」を生む体験活動を推進する。 ・教科横断的な視野で、体験活動を効果的に取り入れる。 ・学年間の連携を密にし、「感動」を生む体験活動を推進する	A	活動を行うためには準備の時間も必要になるので、行事縮小の流れの中で時数確保の見直しも必要となる。	・縦割り班での行事や活動を積極的に取り入れることで生徒のやりがいや達成感を得ることができるため、それらを継続していく。時数確保に関しては準備の段階で意識して計画して進める。	町図書館で馬頭高校の生徒が読み聞かせをやっているのを、中学生が読み聞かせをするのはどうか。
II 確かな学力の向上を図る学習指導				
①学習指導を充実させ学力向上を図る。 ・主体的で深い学びの充実、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現 ・家庭と連携した基礎的・基本的内容の定着 ・「那珂川スタイル」授業の確立 ・英語教育の充実 ・タブレットPCの効果的活用	B	・話を聞けない生徒への対応や個に応じた支援が必要。 ・課題を提出できない生徒への対応や学習の記録等の有効活用が課題。 ・アウトプットの時間の確保や定着問題を実践することにより生徒の学習状況を確認することができた。 ・英語に対する生徒の意欲が高いので、那珂川スタイルを実践し効果を図る。	・授業中の生徒指導を怠らないでその都度指導していく。まわりの先生方の協力を得る。 ・放課後学習の実施(課題未提出生徒の同意を得て、学習をサポートしながら支援する。) ・教師が意図的にアウトプット、定着問題の時間を設定し、実践する。(継続) ・タブレットPCの活用の様子を保護者へ周知していく。(ホームページ等)	町の学校教育課とのハッピースローププランの流れを継続してほしい。先生方が共通理解をして生徒への学習指導にあたっていることが素晴らしい。
III 自己指導能力を高める児童・生徒指導				
① 豊かな心を育てる指導を推進する。 ・「特別の教科道徳」を要とした道徳教育の充実 ・学業指導の充実 ・人権教育の推進・充実 ・自己有用感のある学年・学級経営 ・教育相談の充実と組織的対応の確立	B	・「特別の教科道徳」の年間指導計画に沿って授業実践をし、話し合い活動を充実させる。 ・那珂川スタイルの実践(定着問題による自己の学習の確認をする必要あり) ・生徒指導、教育相談、特別支援の各担当、SC、SSW等が連携を密にして組織的かつ、他機関とも連携しながら対応することができた。	・定着問題を実施し、「どこが分かって、どこが分かっていないか」という自分の学習の確認ができるようにさせる。そのための問題を実施する。課題があった場合は、それをそのままにさせない指導をしていく。 ・現在行っている教育相談(体制)を組織的に実践していくことを継続する。	・トイレのスリッパの並びが乱雑な様子を見たが、そうゆうところも大事にしてほしい。
2 自分の生き方を考える教育を充実する。 ・キャリア教育・進路指導の充実 ・ハッピースローププランに基づく小中連携教育の推進 ・読書活動の推進	B	・全学年対応の進路説明会の実施。 ・小中交流会を実施し、生徒の自己有用感が高まった。 ・キャリアパスポートの活用の計画的実践が課題。 ・読み聞かせボランティアによる朝の読み聞かせの実施。	・全学年対応の進路説明会の実施。 ・来年度の小中交流会の計画と実施 ・キャリアパスポートの運用計画を見直して実践していく。 ・読み聞かせボランティアによる朝の読み聞かせの実施。	・ヨガや体を動かすことを専門として生徒に指導できる方もいるので、協力をしていきたい。
IV 健康・安全、体力の向上				
1 安心・安全な学校づくりを推進する。 ・教育環境の整備充実 ・生徒の危機予知能力の育成・向上 ・教職員の危機管理意識の向上 ・施設・設備の安全管理 ・感染症対策の徹底	A	・事務と連携して教育環境の整備充実を図った。 ・外階段扉や空き教室ドアの開け放しが多くみられる。 ・担当教員による活動前、活動後の用具の確認の意識化を図った。 ・生徒の参加に加え、担当者を入れ替えての安全点検を実施した。	・教育環境に不備があるときには事務に相談する体制を継続していく。 ・扉を閉めることの意義を再確認し、教職員と生徒に啓発を図る。 ・活動前後の用具点検を常時活動として実践していく。 ・マナーリ化を防ぎ、新たな視点での安全点検ができるため、現体制の継続。	生徒も先生もAEDを使えるように講習会をして、認定証をもっておくとよい。
2 健康教育の充実と体力向上の推進を図る。 ・健康で安全な生活態度の育成 ・主体的に取り組む体力づくりの推進 ・安全教育・防犯教育の充実 ・健康な心身を育むための食育の推進	A	・生活リズムが崩れている生徒や睡眠時間が少ない生徒がいる。 ・体力づくりに参加する生徒が多い。 ・中学1年生家庭科の学習で町の栄養士による献立作成を実施。	・規則正しい生活リズムの定着を図る。 ・睡眠の重要性を生徒に周知していく。 ・食に関する情報を発信していく。 ・交通安全教室、避難訓練を計画し実践する。	生徒だけでなく親への指導や講話の機会をもうけるとよいのではないかと。
V 家庭・地域との連携				
1 「地域とともにある学校」づくりを推進する。 ・家庭・地域と連携した基本的生活習慣の育成 ・コミュニティ・スクールの効果的運営 ・ホームページや各種「たより」による情報発信	A	・保護者アンケートの結果から生徒の家庭学習の取組に課題がある。 ・生徒が学校運営協議会の熟議に参加し、地域の方と意見交換をすることができた。 ・PTAの組織改訂により、広報委員会が無くなったが、ホームページ等を利用して学校の様子を紹介した。	・家庭学習ノートコンテストを実施し、優秀なノートを掲示紹介することで、自分の家庭学習ノート作成と実践の参考となった。 ・熟議に参加する生徒を考え、他教員にも参加を促す。 ・生徒の活動の様子を随時ホームページにアップし広報していく。	生徒と話し合う熟議はとても効果があると思う。この活動を保護者に知ってもらいたい。